

2021 年度読書マラソンコメント大賞 全国版 & 愛教大版 受賞作品一覧

賞	書名	著者	出版社	コメント	ペンネーム
全国版 銀賞	正欲	朝井リョウ	新潮社	苦しく、もがくような、それでもページをめくる手が止まらない、今までにない読書体験だった。自分の想像力の限界を突きつけられ、自分の見ていた世界の狭さを思い知らされた。当然のようにマジョリティ側に立っていて、それを疑うことのなかった自分に向き合わされる。多様性を認めると謳いながら、正しくないと言われるものを断罪する今の社会。私も自分の想像の範疇にある『都合の良い多様性』に満足していたのだと気付いた。他者を理解しようとはしても、理解した気になってはいけない。「正しい」とは何か、きっと答えは出ない。	ごま さん
学長賞	十歳のきみへー九十五歳のわたしから	日野原重明	株式会社富山房インターナショナル	「十歳のきみへ」に出会ったのは丁度10歳の夏。そして今年、20歳を迎えた私は再びこの本を手にとった。本には10歳の私が引いた鉛筆の線が残されている。これを見ながら「こんな風に考えていたのか、今とはちがうな」と思いをはせる。一方で、10年前と全く変わらない印象は日野原先生の優しく温かい言葉。先生のメッセージがストーンストーンと心に刻まれる。 何年経とうと変わらない気持ちもあれば、思いが変化することもある。10年後、20年後の私はこの本を読んで何をどう感じるのでしょうか。節目節目に読んで心の変化を味わいたい。	えりす さん
図書館長賞	グラスホッパー	伊坂幸太郎	角川文庫	たった1つの事件を通して、3人が導かれるように出会う様は本当に未来のレシピが決まっているようでした。今まで出会ってきた人たちも、もしかしたら出会うべくして出会ってきたのかもしれませんが。そして、今まですれ違ってきただけの人も、たった1つのきっかけを通して出会うことになるのかも…。物語を通して、揺れ動く殺し屋たちの心情や、人の命が消えていく表現が今生きていることの実感を与えてくれます。仮に未来が決まっていたとしても、「死んでいるように生きたくない」そんな精神を持ちたいと思いました。	アップルパイ さん
生協理事長賞	牧師、閉鎖病棟に入る。	沼田和也	実業之日本社	普通って何だろう？ 周りを見て悩んでいた私は、“「ふつう」などどこにでもある“という言葉に救われた。 タイトルの通り、これは牧師が入院していた3か月間の話である。話というより、記録とした方が適切かもしれない。閉鎖病棟の仕組み、出会った人々、そこで考えたことなどが詳しく記されている。 この本を読んで考えたことは、「これが自分だ」と認識している自分とありのままの自分は、案外一致していないのかもしれないということだ。 周りを見て悩む時間を、自分と向き合うことに使ってみようと思った。	すもも さん
特別賞	勉強するのは何のため？	苫野一徳	日本評論社	「なぜ勉強するのか」に「正解」はなく、「納得解」を求める問題だという記述に得心した。確かに、人によって学ぶ目的は違うと思ったからだ。正解のない問いは、世の中にあふれている。そんな社会の中で、皆が納得できるアイデアを考えようとするのは、とても大切なことだと思う。「勉強なんて嫌だ。なんで勉強しなきゃならないんだろう」と感じた人に是非読んで欲しい。何点かその答えが示されていて、納得できる解を見つけられるかもしれないから。	リーリー さん